

【ねがいましては】

平成20年1月7日

KYOWA SCHOOL

第206号

「こころを重ねる」

合格できたときの感激を夢見ながら取り組む姿は、誰も批判などできるはずもない姿です。一心不乱な姿は頼もしさを覚えます。

家が貧しいので何としてでも楽な生活を両親にしてもらいたい。そのためには一生懸命に勉強をして、高所得を得られるような職業に尽きたい。幼少の頃読んだ伝記に登場した人物に憧れ、そのような人生を歩みたいので……。以前は純粋なものに背中を押されながらの一心不乱であったようです。

しかし今の受験に対する子どもたちのプロセスは、以前にも増して殺伐としたものになっている感があります。成績というものに小学校時代から苦しめられ、その成績の延長線上に受験が待っているだけ……。

物が豊かになり平均寿命が飛躍的に伸び、それと平行して親の就労期間も伸びた今、子は大学を出て以後も生活に窮することがなくなってきました。これも今の子どもたちの受験に対する意識に寄与しているのかもしれませんが。

子どもが子どもながらに抱く夢、又は目標。意識調査をしたわけではないので明確な表現はできないにせよ、明らかに以前とは異質なものになっているようです。

人生とは目標を持って生きることによって充実感を覚えます。マイホームがほしい、車がほしい、貴金属がほしい……（お金編）。僻地医療の医師になりたい、地球温暖化を杭止める科学者になりたい、キュリー婦人のようになりたい……（お金で買えない編）

現実がどのように推移しているかなど分かるはずもない子どもたちにとって、人生を考えさせることはかなり難しいことと言えます。極々身近な人々からの情報を得、極々目の前に目標を設定します。「あの子がディズニーランドに行ったから私も行きたい。」「あの子の家には Wii があから、ぼくもほしい。」「あの子は最近最新型の携帯を買ってもらったから私もほしい。」「……人生どころではありません。

物が溢れる社会に暮らす私たちは、その欲の持って行き先を、ことごとくお金で手に入れるものにしてしまったようです。

お金で買えないもの、一生かかっても絶対に買えないもの、それを目標にしている人を探し出すことは……はたしてできるのか。それがまた子どもであったなら……。

私が子どもたちを見ていて、つい感動してしまうものが『欲のない行動』です。生まれながらにして、『欲のかたまり』としてこの世に生を受けてきた『子』、この『子』がやがて言葉を得、他人との意思の交わりを始めた瞬間から、『欲』のかけひきははじまります。学校で多く見受けられる『欲のかけひきの瞬間』……「ねえ、きのう何時まで勉強した？ わたし、うっかりして寝ちゃった。」（本当は寝てなどいません。）

中学校での定期テストの結果は、点数もそうなのですが順位で表されます。どの子にも「今度のテストでは順位を上げなきゃ。」という気持ちがあります。ない子がいたとしたら、それはあきらめた子です。欲がないではなく、自己の人生に前向きをなくした状態なのです。一度しかない人生、しかも青春真っ只中、人生に目標を失った時間があるとすれば、きっと病床についている人たちに真剣に叱られるでしょう。

成績から飛び交う様々な『うそ』『いじめ』……そのどれもが本来最も持たなければならない『思いやりや優しさ』とは裏側に位置しています。

家でも学校でも、思いやりや優しさを持とうとたびたび言われながらも、成績となると『うそ』や『いじめ』が溢れだす……。言葉では言い表すことのできない矛盾した感情に子どもたちは包まれます。

今年も『冬のくりたのランチ勉強室』が始まりました。私が昼食の準備にかかると、質問にすぐ答えられません。すかさず「○○ちゃん、教えてあげてくれる？」と言って子どもたち同士で助け合いの勉強をしてもらいます。今まで自分がしていた勉強以上の集中力を使って教えています。当然教えられないと二人そろって「わかりません」と現れます。ランチが終わりました。女の子たちは洗い物にかかります。洗う子、拭く子、しまう子、それぞれに役割分担をし、手際よく片付けてゆきます。もっぱら男の子たちは食材の買い出し部隊になります。

「先生、もう一回やりたいので、コピーしていいですか。」「先生、これと同じところをコピーして持って帰っていいですか。」「先生、家でやりたいので、これ貸してもらえますか。」そのどれもが自分から飛び出してきた、自分の心です。誰に命令されるでもない、誰に左右されるでもない、自分だけのこころです。彼らは自発的に復習を手に入れました。『成績』というものを一瞬ですがまったく意識しない状態の心です。

「自宅を手に入れ始めたな……。」私のこころはお金では買うことのできない、なんともいえない、『ひとに出会えたな』という満足感でいっぱいになります。

今年もたくさん、思いやりと優しさに出会うことのできるよう、君たちの中の『こころ』、くすぐらせていただきます。家庭や学校で傷ついたとき、ここはその傷ついた心を癒す場所でもあります。助け合う、譲り合う、そんな風景で溢れた空間です。また1年、君たちとともに歩かせてください。ありがとね。